



オオジシギ渡り経路の衛星追跡

目的

オオジシギは北海道を主な繁殖地とし、オーストラリア東部からタスマニア島を越冬地とする渡り鳥である。標識調査による海外での回収例、国内各地で観察例はあるものの、渡り経路が不明である。本種を保護するためには現状の把握が必要であり、保全すべき場所や環境を特定するために衛星追跡で渡り経路の解明を試みた。

方法

2016年7月7日～26日 北海道苫小牧市の勇払原野でオオジシギを108羽捕獲。体重155g以上の成鳥5羽に約5gの衛星追跡用送信機を装着。アルゴシステムをもちいて位置データを取得した。そのうち一定以上の精度(LC1)のものを抽出、同一日(JST)の複数データの重心を算出し、その日の位置とした。また、同一日(JST)中のLC1以上の精度を持つ50km以上離れた連続した2点間で移動速度を推定した。



送信機をつけた
オオジシギ

結果

渡り前に信号が受信されなくなった1羽を除く4羽は、8月27日から10月9日の間に渡りを開始し、いずれも南東方向へ向かった(図1)。そのうち3羽は渡り開始後1～2日で信号が途切れた。ID158873は9月8日まで苫小牧市内に滞在した後、推定で9月10日に渡りを開始し、東経140度から149度の間を南下し、6日後の9月16日にニューギニア島北部へ到達した。その後すぐに信号が途切れ、最終的な越冬地を確認することはできなかった(図2)。9月8日から9月16日の各重心間の距離の総計は5426kmで、飛行速度は平均46.4±8.3km/h(±SD, 範囲:33.1-59.2, N=8)であった。また、2羽で北海道内での移動が見られ、ID158871は苫小牧市から約75km北の岩見沢市内に7月25日から30日の間のいずれかの日に移動し、そこで28日以上滞在、ID158874は約100km東の更別村に9月27日に移動し、12日滞在してから渡りを始めた。勇払原野がその個体の繁殖地かどうかはわからないため、勇払原野も含め北海道内に中継地が存在し、また、太平洋を越えた後もニューギニア島など複数中継地がある可能性がある。

